

Science No.1

種子をつくらない植物～コケ植物編～

朝晩は少しひんやりするものの、日中は半袖でも過ごせるような暑い日も増えてきました。学びのプランは順調に進んでいるでしょうか？

実は今、「4章 植物のなかま分け」の単元で登場する種子をつくらない植物のなかまであるコケ植物が、ちょうどなかまをふやす時期になりました。そこで、今回は本来ならみなさんに授業で本物をお見せしたかったコケを写真で紹介します。

コケ植物



コケ植物の体には、種子植物やシダ植物とちがって、根・茎・葉の区別がありません。根のように地面に体を固定する役目をもつ部分を「仮根」といいます。この写真のコケはその下の土ごと採取してきたものです。

左の写真を見ると、コケからたくさんの胞子のうが出ているのがわかります。赤い丸で示した先端のまるっぽい部分が胞子のうです。この中に、子孫をふやすための胞子が入っています。

コケ植物は石垣やコンクリートの隙間など、街中でもよく見かける植物です。昔からある盆栽であったり、最近は苔玉やテラリウムが流行して家の中に観賞用として置いてあることも珍しくなく、とても身近な植物の1つだと思います。

世界にはおよそ20000種以上あり、日本にはおよそ1800種が自生していると言われています。(コケ植物のなかま分けは、実は専門家でも非常に難しいそうです。)

今回写真で紹介したようなもの以外にも、様々な形、大きさのコケがあります。ぜひ、家の近くを探してみてください。